

【研究室便り-24】

中外製薬株式会社 鎌倉研究所

今回は、中外製薬株式会社 鎌倉研究所 長野 光司先生に研究室のご紹介をお願いしました。

中外製薬株式会社 鎌倉研究所

私たちは創薬研究における作用機序解析やバイオマーカー探索、標的探索などに役立てるためにプロテオミクス解析を展開しています。標的未知の化合物に結合するタンパク質の探索(ケミカルバイオロジー)やリン酸化プロテオミクス、細胞表面タンパク質、グライコプロテオミクスなどの各種プロテオミクス解析技術を確立して、創薬研究に応用しています。また、バイオインフォマティクスのチームとの密接な連携によって、データ解析やデータベース作りを進めています。更に中外製薬はロシュグループの一員である為、データベースや創薬ツールをロシュと共有し、創薬技術に関する情報交換などを Global な視点で行えることも利点の一つです。

プロテオミクスの研究員が、癌領域や慢性疾患領域の創薬研究部員との密接な連携・協力の下に創薬テーマのニーズに併せて技術導入、開発をしているところが最大の強みだと考えています。こんなことができないかというニーズにできるだけ時間をかけずに対応できるように心がけています。また 1 回の分析でどのくらい同定・定量できるかという点と生体試料から特定のタンパク質群を分画し、特異的なものを見分ける点にはこだわりを持って解析を行っています。

質量分析計はサーモ社の LTQ-Orbitrap を中心に分析を行っています。解析対象は細胞株や動物の組織が多いですが、血清、血漿、尿サンプルなども手がけています。創薬研究にプロテオミクスを役立てるよう尽力し、実際に役立つ有用な技術であることを示して、拡大していきたいと考えています。また同じ分野の方々との技術ベースの情報交換を通じて、良いものを吸収し、常にレベルアップを図っていきたくと考えています。

お願い：会員の皆様の研究室をご紹介下さい。

400～800 字の原稿を朝長(tomonaga@nibio.go.jp)宛お送り下さい。